

## 高齢者に関する意識調査 日本の大学生における学部間比較

研究代表者

グライナー智恵子 神戸大学大学院

研究分担者

岡本菜穂子 上智大学

大石朋子 元神奈川県立保健福祉大学

坂元眞由美 園田学園女子大学

科学研究費補助金 基盤研究 (B)

海外学術調査 No. 24406037

本調査は、今後高齢者ケアの担い手となっていく大学生を対象に、高齢者に対する意識とその影響要因を調査し、若年層に対する高齢者理解推進への基礎資料を得るために実施した。ここでは回答を看護大学生、医学科大学生、医療系以外の大学生に分類し、主な調査項目の概要を報告する。

### 【調査方法】

本研究では、自記式質問紙を用いた縦断的探索的記述研究デザインを用いた。研究対象者は便宜的に抽出した大学の1回生358名、4回生189名であり、内訳は男性が128人(23.4%)、女性が419人(76.6%)、属性においては、看護1回生が157人(28.7%)、医学科1回生が95人(17.4%)、その他1回生が106人(19.4%)、看護4回生が189人(34.6%)であった。本調査は2015年に実施し、各調査実施大学が設置する研究倫理審査委員会の承認を得た上で行った。

### 【研究結果】

#### 1. 高齢者への介護に対する考え

介護は社会がサポートすべきであると思うかという問いに対して、全体で見ると「非常にそう思わない」、「そう思わない」の否定的項目を選択したのが4.4%であり、「そう思う」、「非常にそう思う」の肯定的項目を選択したのは95.1%であった。学科属性別にみると、その他1回生で否定的意見の割合が最も高く9.5%を示した(図1)。

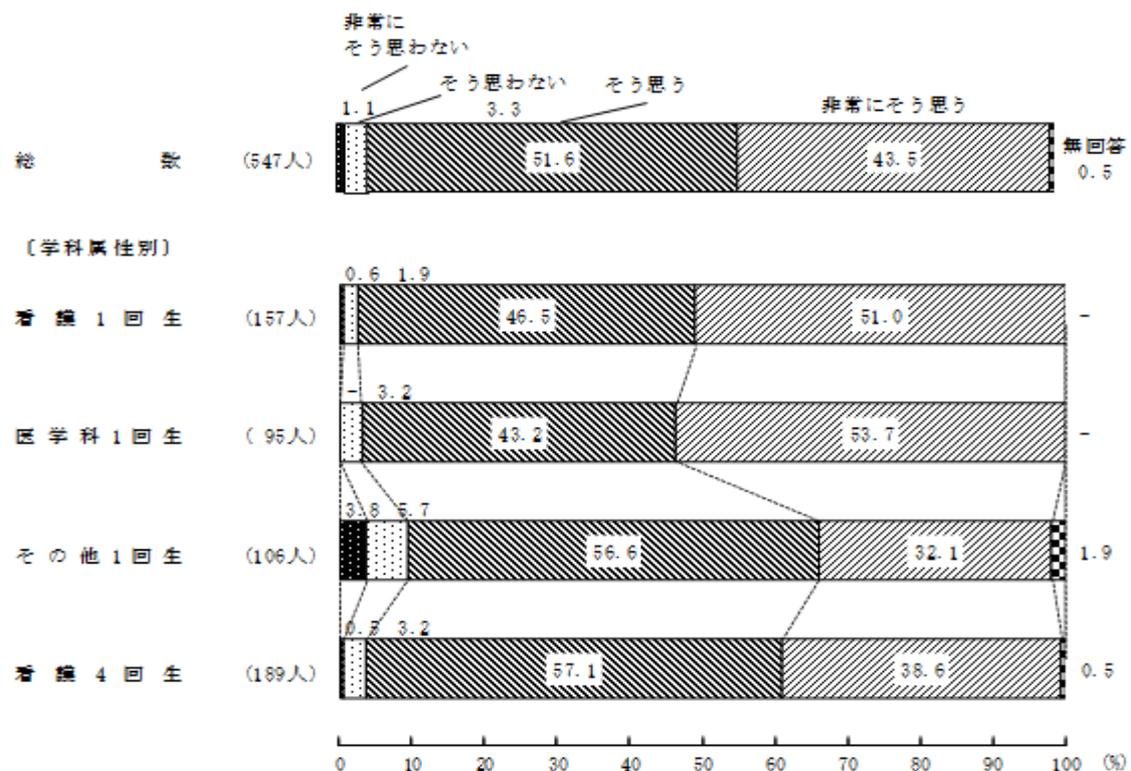


図1 介護は社会がサポートすべきである

介護は家族で行うべきであると思うかという問いに対して、全体でみると否定的項目を選択したのは46.6%、肯定的項目を選択したのは52.7%であった。学科属性別でみると、看護4回生では肯定的意見に比べて否定的意見の割合が高い結果であったが、他の学科では否定的意見に比べて肯定的意見の割合が高い結果であった（図2）。

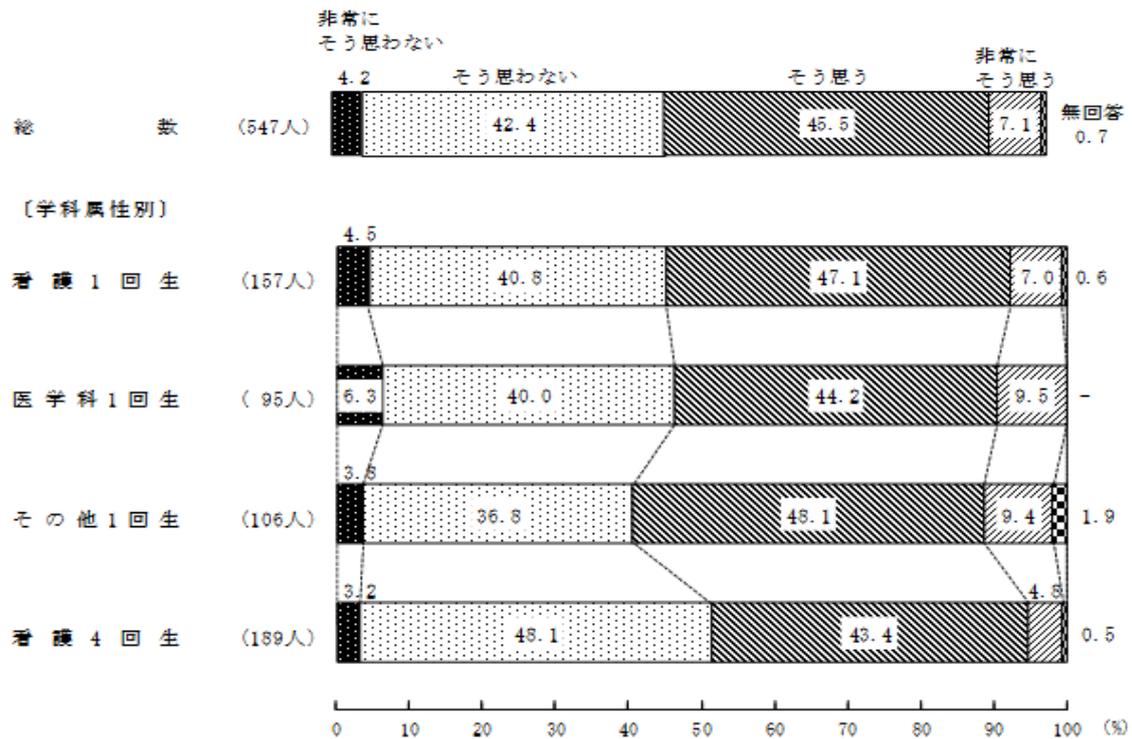


図2 介護は家族で行うべきである

できるだけ社会資源を使うべきであると思うかという問いに対して、全体でみると否定的項目を選択したのは18.5%、肯定的項目を選択したのは81.2%であった。学科属性別にみると、看護4回生において肯定的意見を示したのが94.2%と9割を超えたのに対し、他学科では7割前後であった（図3）。

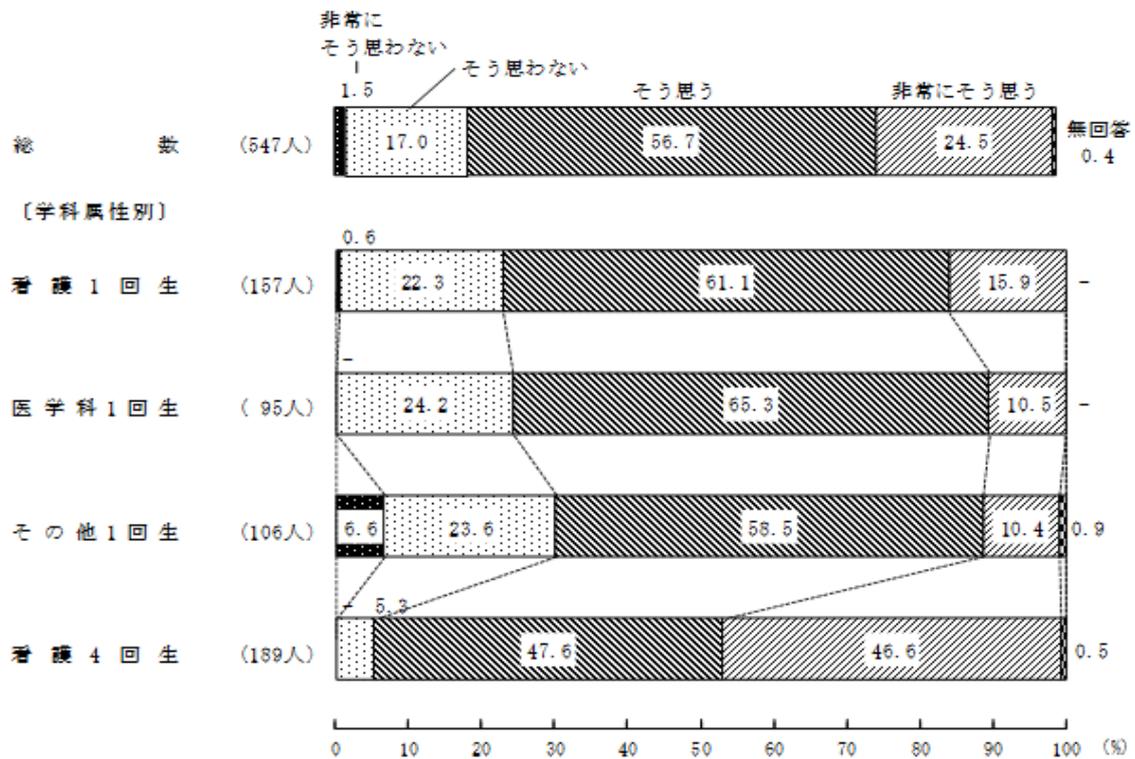


図3 できるだけ社会資源を使うべきである

介護するものは自分自身の生活を優先するべきであると思うかという問いに対して、全体でみると、否定的項目を選択したのは16.9%、肯定的項目を選択したのは82.8%であった。学科属性別でみると、その他1回生、医学科1回生、看護4回生、看護1回生の順に、「非常にそう思う」と答えた者の割合が高い結果となった(図4)。

自宅で介護をすべきであると思うかという問いに対して、全体でみると否定的項目を選択したのは66%、肯定的項目を選択したのは33.1%であった。学科属性別にみると、医学科1回生において肯定的意見が40%であり、他学科に比べて最も高い割合を示した(図5)。

介護する上で、高齢者に適した場所についての問いに対して、「自宅」と答えた者の割合が49.5%、「病院」の割合が2.2%、「高齢者向け施設」の割合が42.2%であった。学科属性別にみると、「自宅」と答えた者の割合は看護4回生の66.7%、「病院」の割合はその他1回生の5.7%、「高齢者向け施設」の割合は看護1回生の54.1%が最も高い割合であった(図6)。

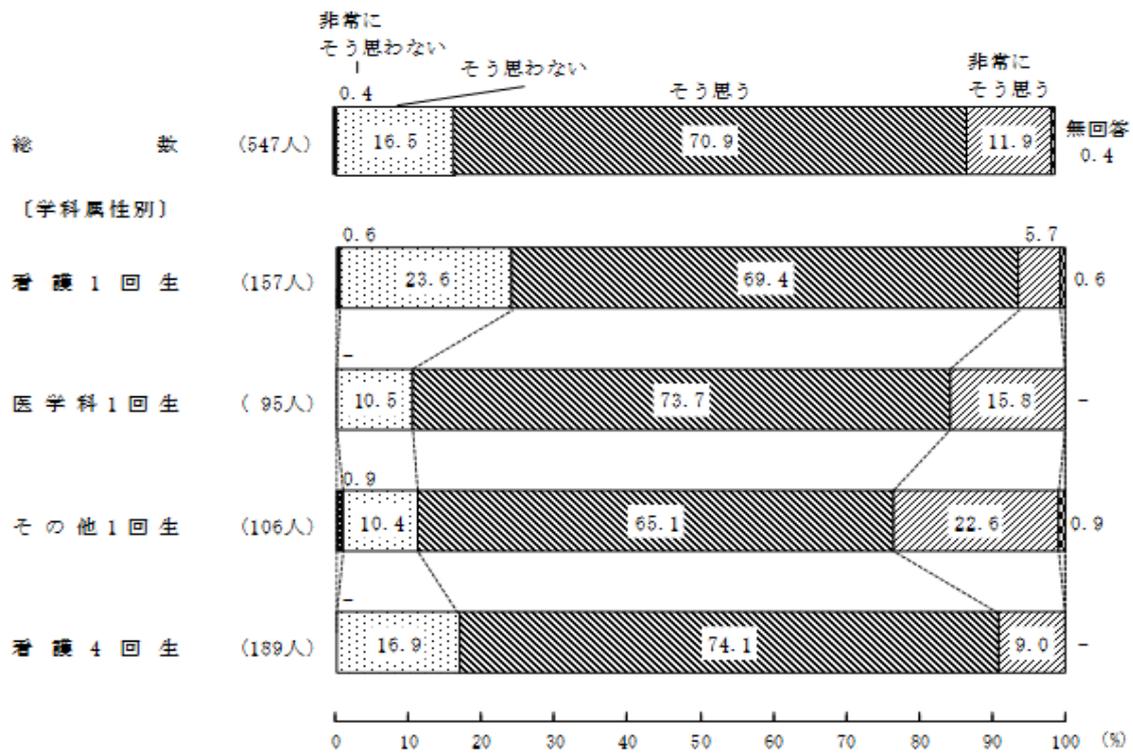


図4 介護する者は自分自身の生活を優先するべきである

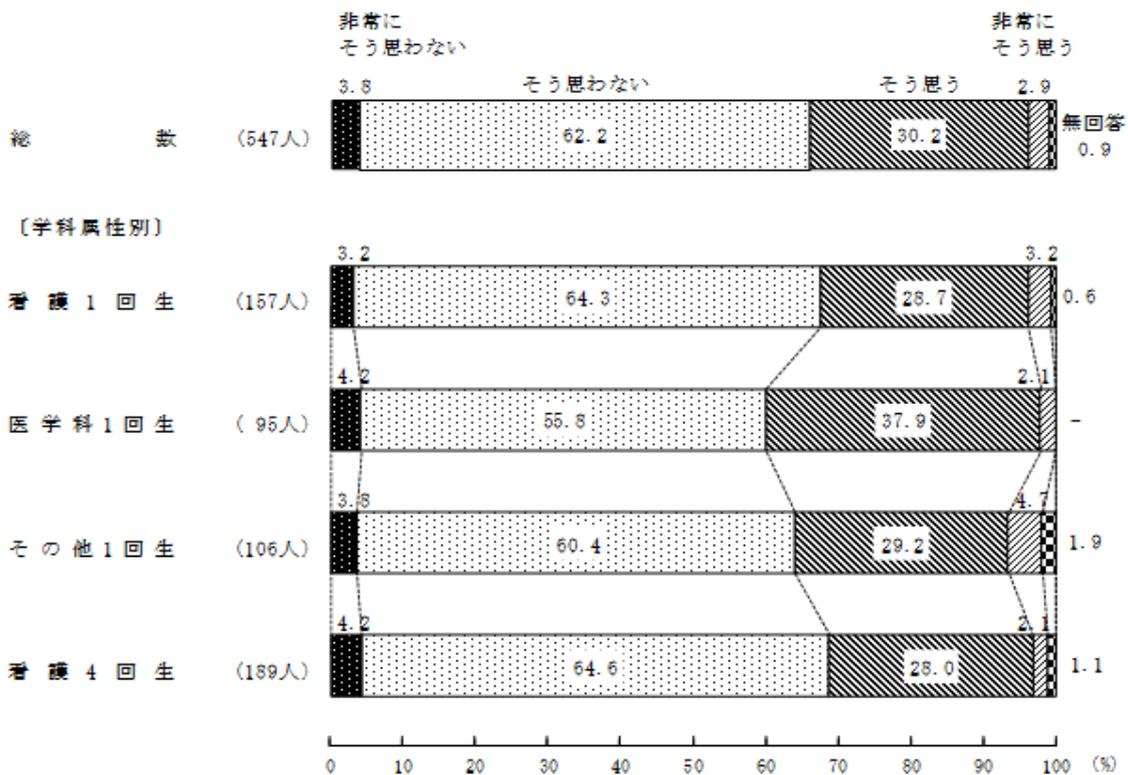


図5 自宅で介護をするべきである

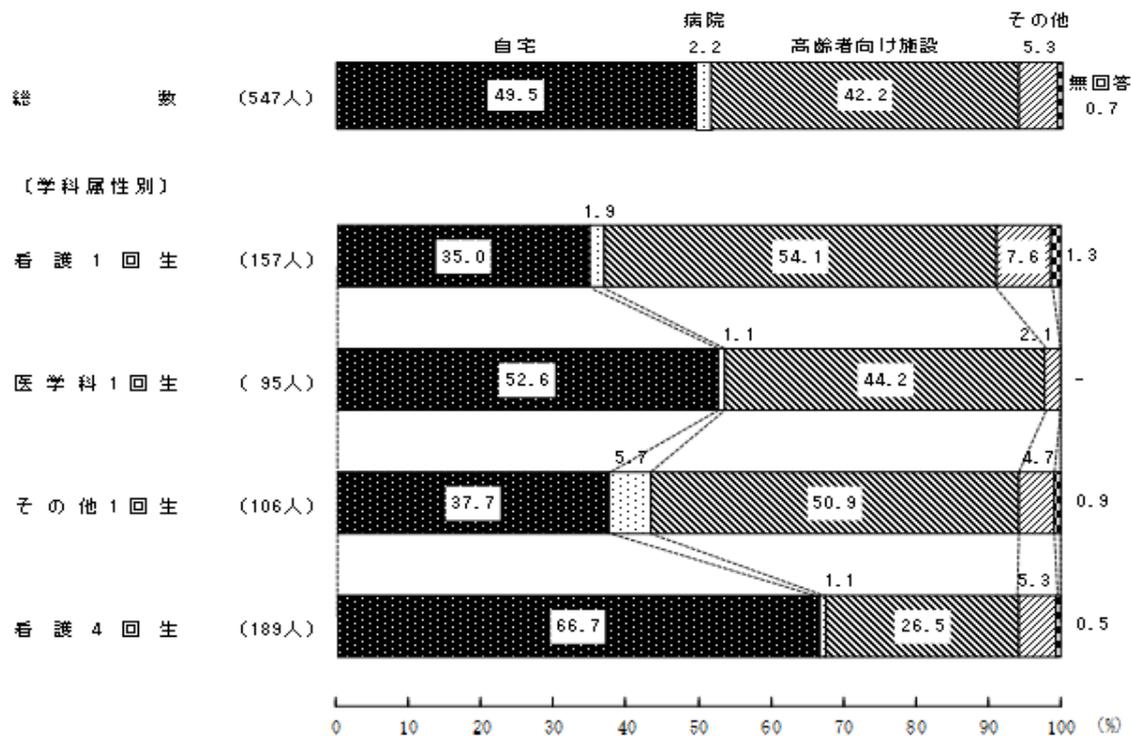


図6 介護に適した場所

自分が介護を受ける際の受けたい場所についての問いに対して、「自宅」と答えた者の割合が49.2%、「病院」の割合が3.8%、「高齢者向け施設」の割合が44.4%となった。学科属性別にみると、医学科1回生、看護4回生において「病院」、「高齢者向け施設」よりも「自宅」で介護を受けたいと考える学生の割合が高かった（図7）。

自分が介護を受ける際に、誰から受けたいかという問いに対して、「家族」と答えた者の割合が39.5%、「看護師」の割合が12.2%、「介護士・ヘルパー」の割合が45.3%という結果であった。学科属性別にみると、「家族」、「看護師」の割合は看護4回生の45%、17.5%が最も高く、「介護士・ヘルパー」の割合は看護1回生で52.9%と最も高い結果であった（図8）。

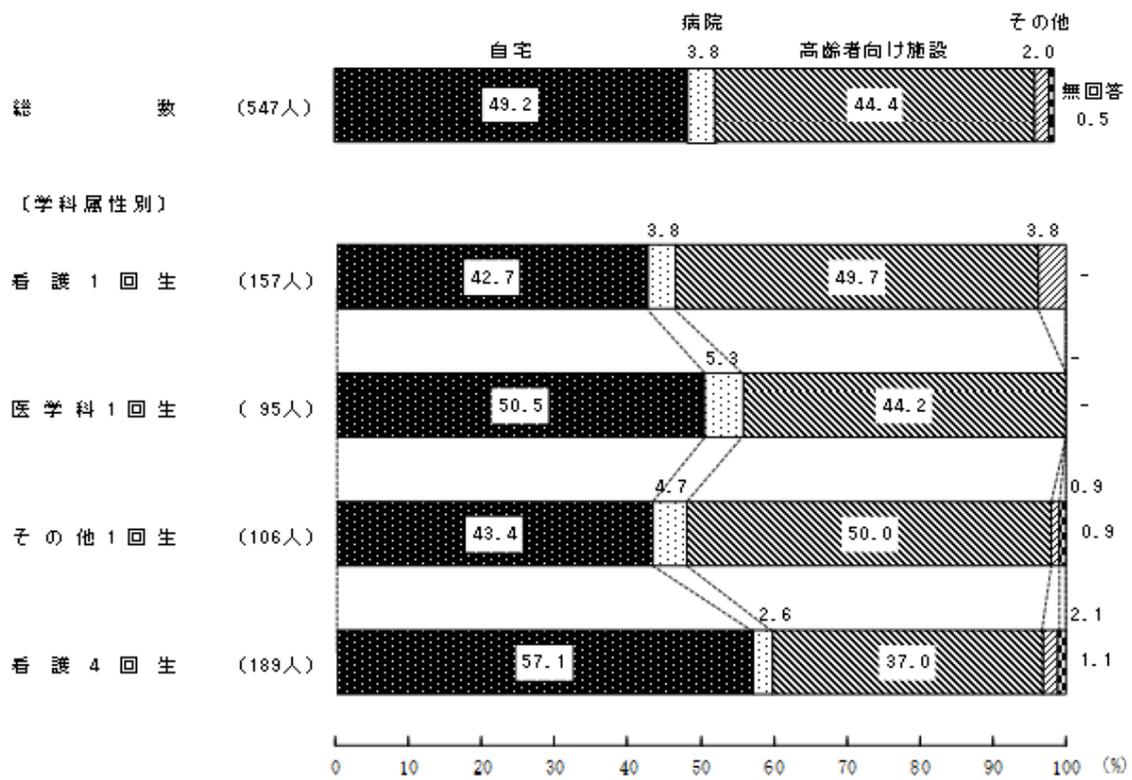


図7 どこで介護を受けたいか

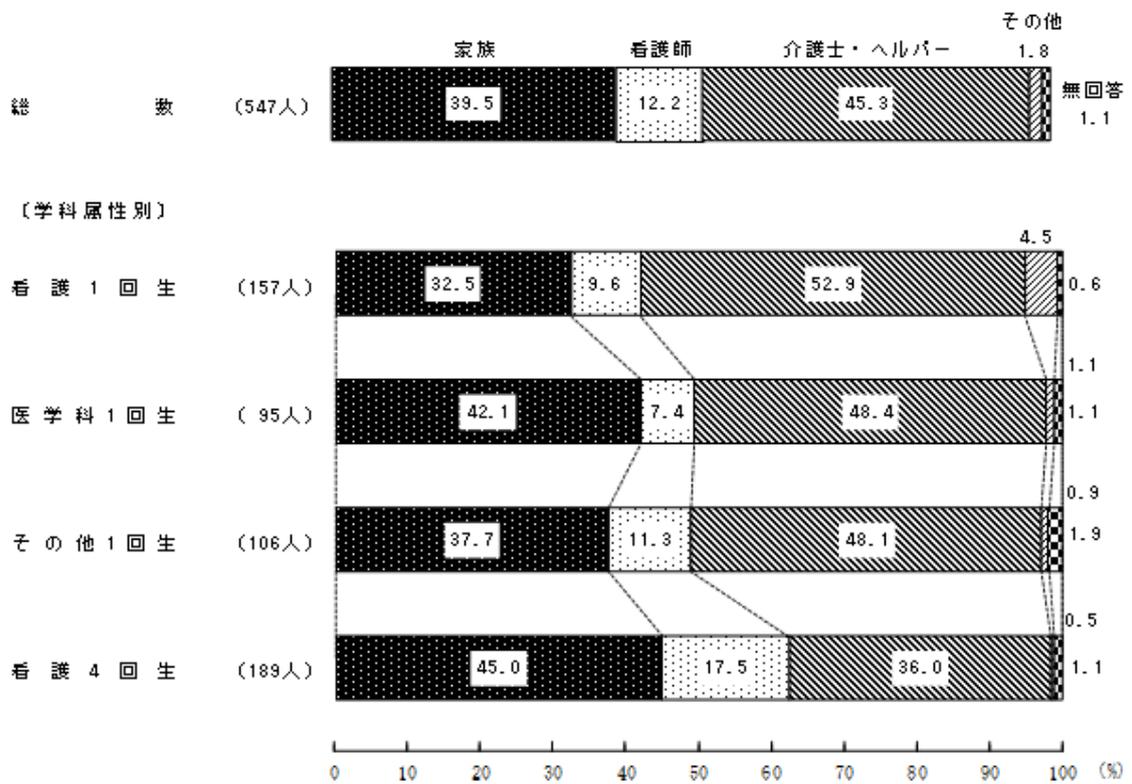


図8 誰から介護を受けたいか

## 2. 大切だと思う価値観について

大切だと思う価値観について2つ挙げてもらったところ、「助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する」、「親孝行、親に対する愛情と尊敬」を選択した者の割合が、それぞれ6割を超えていた（図9）。学科属性別にみると、大きな差はみられなかったが、「助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する」を挙げた者の割合は看護1回生と医学科1回生で、「親孝行、親に対する愛情と尊敬」を挙げた者の割合は看護1回生で、「個人の自由を尊重すること」を挙げた者の割合はその他1回生と看護4回生で、「個人の権利を尊重すること」を挙げた者の割合は医学科1回生とその他1回生で、それぞれ高い結果となった。

（複数回答）

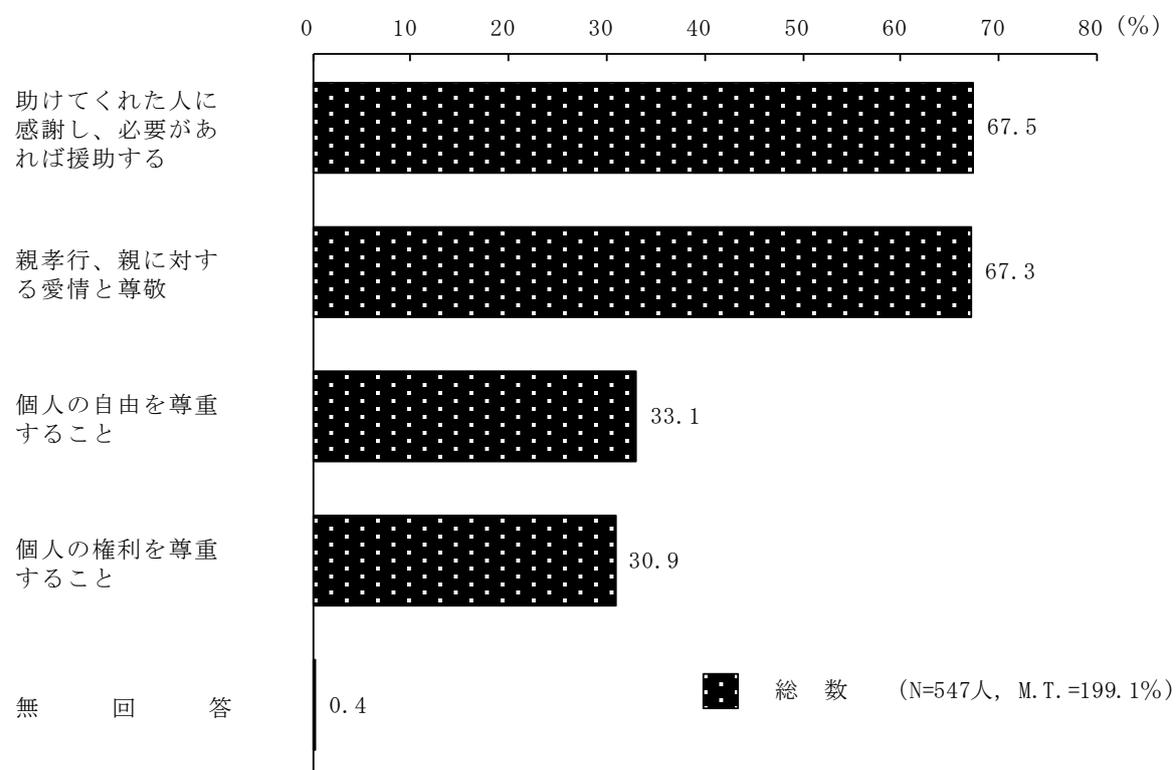


図9 大切だと思う価値観

注：「M.T.」は回答数の合計を回答者数（N）で割った比率（Multiple Total の略）である。

回答者が複数回答をすることができる質問では、通常その値は100%を超える。

### 3. 親の介護について

年取った親は誰が見るべきであると思うかという問いに対して、「子供が面倒をみるべき」と答えた者の割合が 67.8%、「親が自分でなんとかするべき」の割合が 5.1%、「社会がなんとかするべき」の割合が 25.2%という結果となった。学科属性別にみると、大きな差はみられなかったが、「子供が面倒をみるべき」という項目に関しては看護 1 回生の 71.3%が最も高く、「親が自分でなんとかするべき」という項目に関しては、その他 1 回生の 9.4%が最も高い結果となった。そして「社会がなんとかするべき」という項目では看護 4 回生で 27.5%と最も高い割合を示した (図 10)。

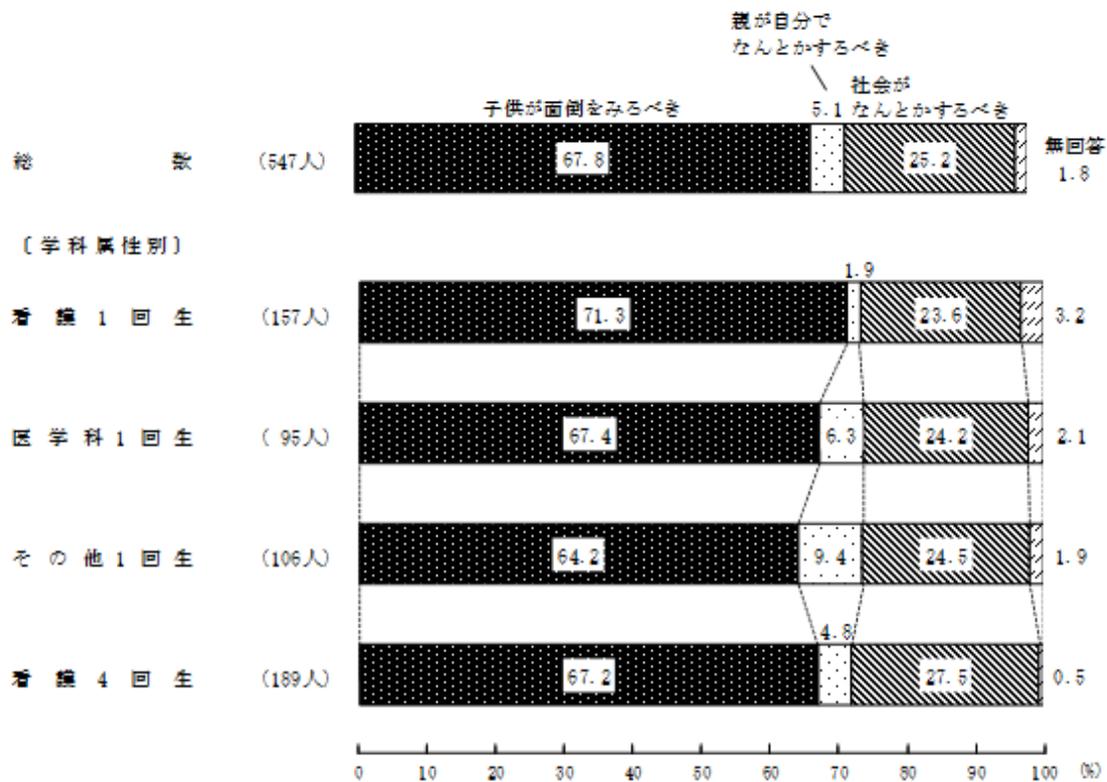


図 10 親の介護について

#### 4. 高齢者に対する価値観

高齢者に対する認識は、Kogan スケール日本語版（否定的項目 17、肯定的項目 17、合計 34）を用いて比較した。Kogan スケールは、非常にそう思わない 1 点～非常にそう思う 6 点のように項目毎に点数化し、点数が高いほど否定的（否定的項目）又は肯定的（肯定的項目）であることを示している。

否定的項目においては、図 11 に示すように全体の平均点は 46.8 点で半分以下となった。性別にみると、男性は 53.9 点、女性は 44.7 点となっており、女性に比べて男性で高くなっており、男性は半分を超える結果となった。学科属性別にみると、看護 1 回生で 44.6 点、医学科 1 回生で 47.1 点、その他 1 回生で 53.8 点、看護 4 回生で 44.6 点となっており、その他 1 回生で最も高く、半分を超える結果を示した。

肯定的項目においては、図 12 に示すように全体の平均点は 57.0 点で半分以上となった。性別にみると、男性は 55.2 点、女性は 57.6 点となっており、大きな差はみられないが男性に比べて女性で高い結果であった。学科属性別にみると、看護 1 回生で 57.5 点、医学科 1 回生で 56.7 点、その他 1 回生で 54.8 点、看護 4 回生で 58.1 点を示し、大きな差はみられないが看護 4 回生で最も高い結果を示した。

全体、性別、学科属性別のいずれも否定的項目に比べ肯定的項目の平均点が高い結果を示した。

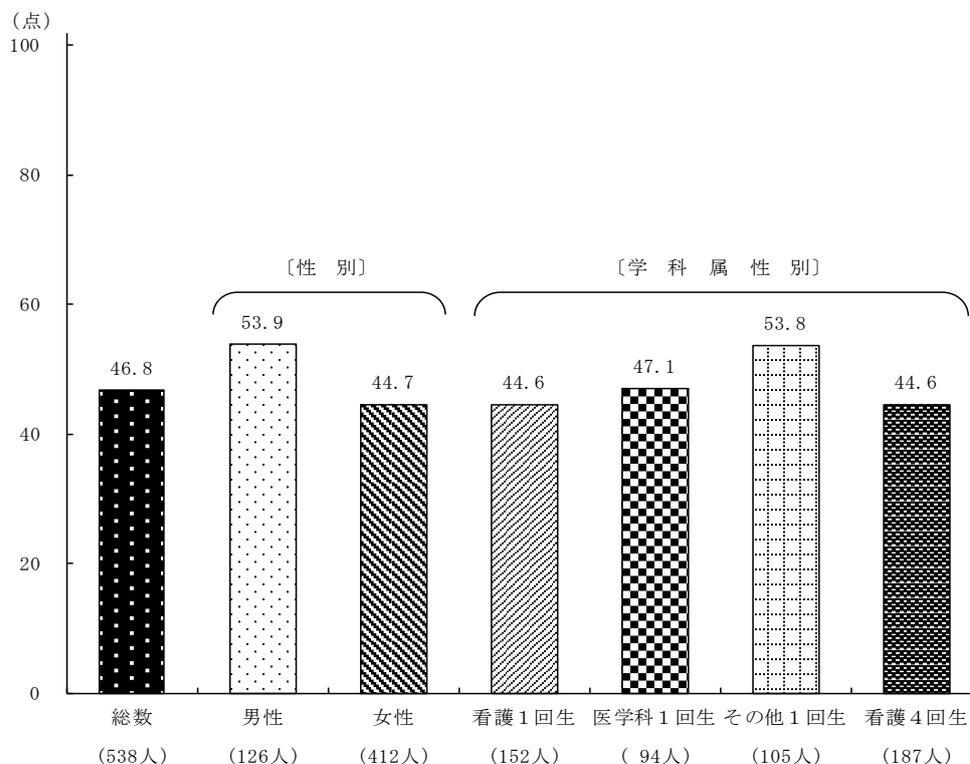


図 11 否定的項目 平均点

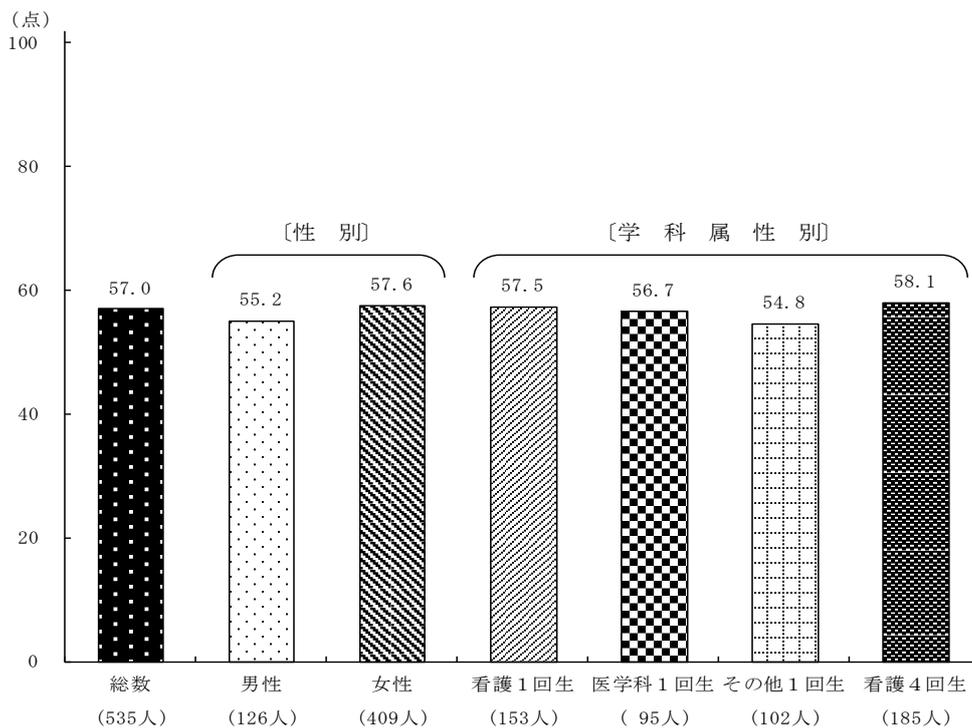


図 12 肯定的項目 平均点

注) 否定的得点が高いほど高齢者に対し否定的であることを示し、肯定的得点が高いほど高齢者に対し肯定的であることを示している。

最後に、否定的項目、肯定的項目の点数全て足しあげ、平均点を算出した。否定的項目 17 問は回答を反転し点数を足しあげた。全体の平均点は 129.1 点で半分以上となった。性別にみると、男性は 120.1 点、女性は 131.9 点となっており、男性に比べて女性で高い結果であった。学科属性別にみると、看護 1 回生で 131.9 点、医学科 1 回生で 128.6 点、その他 1 回生で 119.6 点、看護 4 回生で 132.4 点を示し、看護 4 回生で最も高い点数を示した (図 13)。

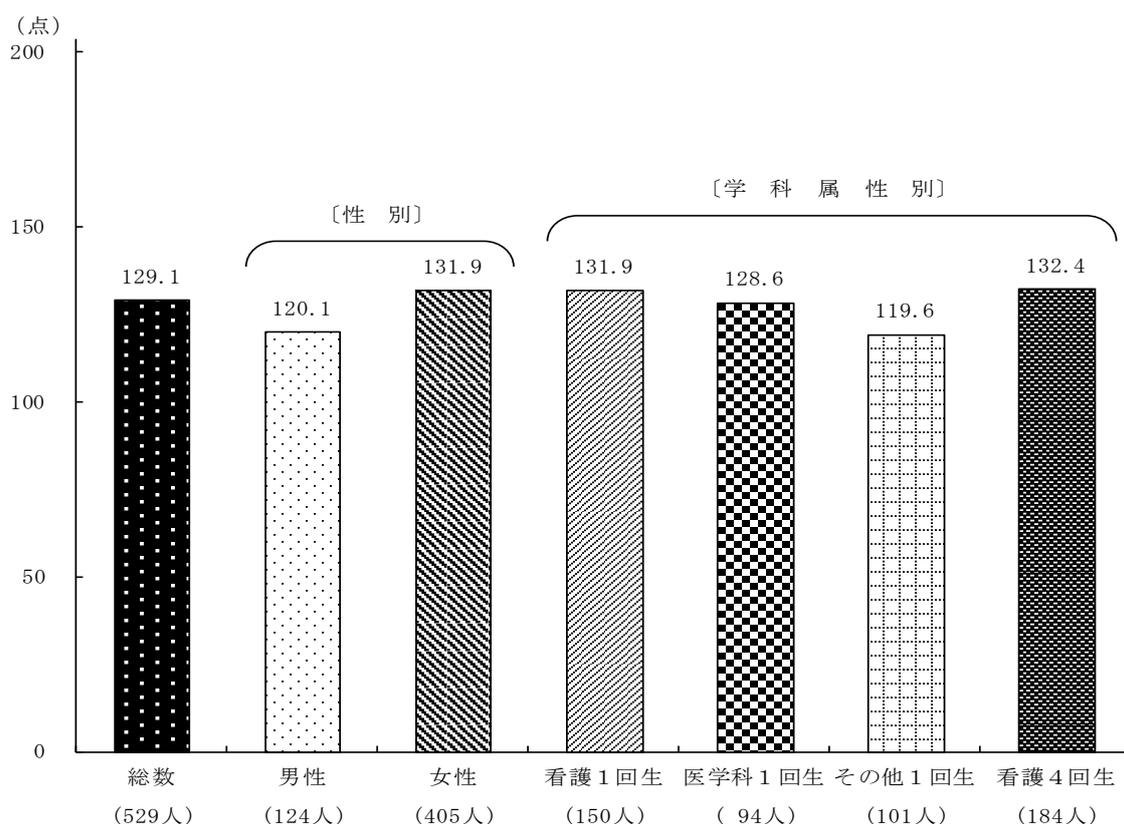


図 32 総合平均点

注) 得点が高いほど高齢者に対し肯定的であることを示している。

## 5. 結果のまとめ

社会資源の活用と家族以外の介護については、看護 4 回生で肯定的である傾向が示唆された。また、同じ看護学生でも 1 回生よりも 4 回生の方がその傾向がある点は興味深く、看護 1 回生がそのほかの学部 1 回生と同じ傾向を示していることから、年齢だけではなく実習経験の差が結果に反映されたのかもしれない。

親の介護についての価値観は、その他の学部 1 回生で「子供が面倒を見るべき」と答えた者の割合が最も低かった。また、大切だと思う価値観について、その他の学部 1 回生は「個人の権利を尊重すること」を挙げた者の割合が最も高かったことから、その他の学部 1 回生は、介護への関心が他学部とは異なる可能性が示唆された。

高齢者に対する価値観は、看護 4 回生が肯定的な傾向を示す一方、その他の学部 1 回生で否定的な傾向であった。本研究により学部によって高齢者に関する意識が異なることが示唆されたが、学部により男女の割合が異なることが影響したことも考えられる。今後、交絡要因を調整し、更なる追跡調査によって学部内での高齢者に関する意識の変化などを縦断的に検討していくことが望まれる。